

# SOCIAL INITIATIVES

## 【心の灯り】を大切にする ワコムの取り組み

CEO 就任を控え、世界各地のオフィスを巡ってチームメンバーとの対話を重ねていた井出信孝には、ある一つの仮説が浮かんでいた。それは「それぞれの胸の中に、小さな【心の灯り】のようなものがあるのではないか」ということ。チームメンバーたちは、製品であれ、事業であれ、サービスであれ、体験であれ、ワコムが提供する価値を通じて社会や身近な誰かの役に立ちたいという想いを持っている。それは決して会社から要請されるものでも、売上や利益のためという打算から生まれるものでもなく、自分の中から湧き上がってくる強い動機に支えられている。

チームメンバーの【心の灯り】は、長い時間、ワコムのあらゆる場所で静かに燃え続けてきた。その【心の灯り】を掘り起こし、物語として紡ぎ、広く世の中に伝えることで、ワコムがチームメンバーの一人ひとりを支えていく。この一連の活動を「Social Initiatives (社会への取り組み)」と名付けたのが2019年のことだ。以来、Social Initiativesでは20を超える【心の灯り】を紹介してきた。その一つひとつに光を当てることで、ワコムがチームメンバーの取り組みを大切にしていることを伝えると同時に、小さな灯りがまた次の灯りを点すように広がってほしいという願いを込めている。そして、それぞれの【心の灯り】が「ワコムがお客様に対し、インクを通じて【体験の旅】を届けるという約束」である「ライフロング・インク(Life-long Ink)」の実現につながっていくことも、ここで書き加えておきたい。

これからも、ワコムの中でそっときらめく【心の灯り】を探し出す試みは続いていく。ここでは、数多ある【心の灯り】の中から、米・ポートランド、中国・北京、神奈川県大磯町の物語を紹介する。



from PORTLAND, US

## 誰もが創造力を発揮できる場をつくり、提供する取り組み

米国北西部の街、ポートランドにある「ワコム・エクスペリエンス・センター」。その名が示す通り「筆が走る“体験”」を地元クリエイティブコミュニティのもとへと届ける役割を果たすハブとして機能している。

ここでシニア マネージャーを務めているのがメーガン・デイビス。ワコムと地元コミュニティをつなぐ大車輪として日々活動しているチームメンバーだ。

「私たちのミッションは、地元のコミュニティと深く関わり、クリエイティブな思考やイノベーションのアイデアを生み出すためのセーフスペース (安全な空間) を提供することです。有名無名に関係なくクリエイティブに関わる人々のマインドを刺激し、また同時に、各人が何の縛りもなく自由に創造力を発揮できる環境を提供しています」。

年間を通して多種多様なイベントやフェスが開催されるポートランドだが、その一つが2016年にスタートした「スニーカー・ウィーク」。「ナイキ」「アディダス」「キーン」などが本



メーガン・デイビス | Megan DAVIS

ワコムテクノロジー (米国)  
シニア マネージャー

社機能を構えるこの街ならではのイベントだ。実はこのスニーカー・ウィークの発起人の一人に名を連ねるのがデイビス。開催期間中、エクスペリエンス・センターはハブの一つとして、スニーカーファンとフットウェア業界をつなぐ橋渡し役を務めている。

またアニメ・マンガ関連のスタジオも多いことからコミコン文化も盛んで、「ローズ・シティ・コミコン」も広く知られている。ここでワコムは、若手アーティストの作品紹介やデモなどのサポートを提供している。

近年のエクスペリエンス・センターの進化について聞くと次のような答えが返ってきた。

「飛び抜けた才能を持つクリエイターが来てくれるようになったことが最大の進化だと思います。『グローバルに考え、ローカルに行動せよ』とよくいわれますが、なぜ地元コミュニティが大切なのかは、この言葉に集約されていると思います。自分たちの地元コミュニティをサポートしなければ、結果的にその先にある世界ともつながることはできないのですから。この言葉を胸に私たちは今後もレベルアップしていきます!」。



from BEIJING, CHINA

## デジタルインク技術の普及と付加価値向上のために

インクディビジョンに所属するラニー・ジャン。北京にてグローバル・プロダクト・マネージャーとして日々の業務をこなしている。

「中国のマーケットとお客様にとっても近いポジションでやりがいがあります」と語るジャン。「着任当初はリージョナル・プロダクト・マネージャーの役割で、スタッフの数が少なかったことから、スタイラスペン、液晶ペンタブレット、ペンタブレットなどさまざまな製品を担当し、お客様の顧客の元を訪れました。そこで彼ら・彼女らのワコム製品に対する愛・不満・期待について率直なフィードバックを聞き、市場のニーズをより深く理解していったのです。これは貴重な経験であり、グローバル・プロダクト・マネージャーの役割に転換した今でも大いに役立っています」。

そんなジャンの言葉から感じられるのは、中国におけるビジネスコミュニティに真摯に寄り添おうとする姿勢。単なるプロダクト・サプライヤーとしてではなく、デジタルインク技術が生む付加価値としてハードウェア、ソフトウェアそしてソリューションのすべてを包括的に顧客へと届けるモデルへの進化を続けているという。ここで大きな役割を果たすのが前述のインクディビジョンだ。

「インクディビジョンは言ってみれば、ワコムの“イノベーション・センター”です。デジタルインク技術の普及とその付加価値の向上のため研究開発を進めています」。

また地元とのつながりをさらに深化すべくジャンが注力しているのが、デジタル文具協会とコネクテッド・インクの活動。どちらもワコムがグローバルに進める取り組みだが、中国に合わせてローカライズすることで、地元パートナーとのつながりを強めているという。

「どちらもグローバルなテーマは維持しつつも、ローカルで独自の活動を行ったり、中国語のチャットグループをつくってコミュニケーションするなど、デジタルインク技術の可能性を共に考えていくパートナーシップの拡大に向け、新たなお客様、パートナー、そしてチームメンバーの誘因に役立てています。文字通り“Chinese Way”ですね(笑)」。



ラニー・ジャン | Lannie ZHANG

ワコムチャイナ  
グローバルプロダクト マネージャー

from OISO TOWN, JAPAN

## 【描く/書く】を支え続ける 大磯町とのパートナーシップ

2020年11月、ワコムは、神奈川県大磯町、株式会社セルシス、株式会社アイネットと共に、大磯町の教育の質的向上を目指すパートナーシップ協定を締結した。「絵を描くことが好きな気持ちを支えたい」「描き続けることの先に広がる世界を子どもたちに見せたい」という想いに支えられた大磯町との取り組みを牽引するのは、クリエイティブビジネスユニットに所属する坪田直邦。新宿にあるオフィスと大磯町を往復すること、実に100余回。この取り組みに注ぐ情熱の程がうかがえる。

中学校でのデジタル作品制作を支えるところから始まったこの活動。心の底から楽しみながら創作に励む子どもたちの姿が呼び水となり、現在では多くの町民が参加する。「絵を描くこと」から始まった大磯町での取り組みは「文字を書くこと」にも広がった。次々と生まれる小さな体験や反応が人から人へと伝播し、大磯町全体を巻き込む大きなうねりとなっているのだ。

本業はリテールパートナーシップであり、その任務はワコム製品を一台でも多く売ることだが、坪田を突き動かす原動力は少し異なる。「取り組みを通じた製品体験をきっかけに、ワコムの液晶ペンタブレットやペンタブレットを購入していただくこともあります。私の仕事はワコム製品を通じて多くの人の【描く/書く】を支えること。『ワコム製品を使ってよかった』と思ってもらえることが私にとってのゴールです」。

「学校という場所が得意ではない子が作品制作の時に『すごく楽しかった』と言ってくれた時には、もう、泣いてしまいましたね。この取り組みのない自分は想像ができません。私にとってライフワークと言えるもの。大磯のみなさんに私が支えられているのです」。



坪田直邦 | Tadakuni TSUBOTA

クリエイティブセールス ジャパン  
アカウント マネージャー

